

公認心理師についての伝達事項

<公認心理師志望者全員への注意事項>

- ・ 早稲田大学公認心理師コンソーシアムのホームページ (<https://sites.google.com/view/wkouninshinrishiconsortium>) に情報が掲載されているので、それを参照すること。特に公認心理師についての事前知識がない学生は、HP 下部の「コンソーシアムの紹介」をよく読むこと。特例措置については、HP 下部の「2017年9月15日時点で学生であった者の特例措置」を参照すること。情報は常に更新されるため、コンソーシアムでの情報更新をこまめに確認し、情報を見逃すことがないようにすること。
- ・ 例年、2月上旬頃に「公認心理師科目登録ならびに公認心理師心理（実践）実習ガイダンス」が実施される。実習先や実習のエントリーに関する重大な情報が提示されるので、公認心理師カリキュラムを履修予定の学生は必ず出席すること。
- ・ 学部生は「心理演習（学部：心理学演習 15，公認心理師心理演習）」も履修する必要があることを覚えておくこと。
- ・ 次ページから、各年次にて注意すべき事項をまとめているので、自身が該当する年次の注意事項を十分に把握しておくこと。

< 2 年次における注意事項 > 2

< 3, 4 年次における注意事項 > 3

< 延長生における注意事項 > 5

< 大学院生における注意事項 > 7

<2年次における注意事項>

- ・ 隔年開講の講義もあるので、3・4年次の2年間を通して戦略的に科目登録を行う必要があることを意識しておくこと。
- ・ 教育学部で開講されている講義のうち、文学部所属の学生でも受講可能なものもあるが、その多くは三次登録になる。ただし、登録前であっても初回の授業には参加可能であり、そこで重要な事項が話されることも多いので、履修を希望する場合は初回から授業に参加すること。
- ・ 現場での実習（心理実習）は、制度上は3年次にも行えるが、勉強して十分な知識が身についてからでないと身にならないうえ、実習先にも迷惑がかかるので、心理演習を3年次に、心理実習を4年次に行うことが推奨される。ただし、就活などの関係から3年次に実習参加を予定する場合は、実習に備えて2年次のうちに十分に勉強をして覚悟をしておく必要がある。

<3, 4年次における注意事項>

- ・ 隔年開講の講義もあるので、3・4年を通して戦略的に科目登録をすること。受講を予定していた年度に、その講義が開講されておらず受講できないといったことにならないように注意すること。
- ・ 教育学部で開講されている講義のうち、文学部所属の学生でも受講可能なものもあるが、その多くは三次登録になる。ただし、登録前であっても初回の授業には参加可能であり、そこで重要な事項が話されることも多いので、履修を希望する場合は初回から授業に参加すること。
- ・ 心理学演習 15 (心理演習) の受講にあたっては、履修希望届を期日までに提出すること。履修が認められたら、科目の登録をすること。
- ・ 現場での実習（心理実習）は、制度上は3年次にも行えるが、勉強して十分な知識が身につくまでにはならないと身にならないうえ、実習先にも迷惑がかかるので、心理演習を3年次に、心理実習を4年次に行うことが推奨される。なお、割り当てられた実習先で必要と思われる知識は、積極的に自学自習すること。
- ・ 心理実習の受講希望者はコンソーシアムに掲載されている通り、期日までに2021年度実習先エントリー調査など、書類提出や申請をする必要がある。原則として、途中離脱は不可で、欠席も認められない。拘束時間も長く（普通の授業のように特定の曜日・時間帯に固定されていない）、別途実習経費がかかり、病院実習前抗体検査・検便検査（コンソーシアムに掲載）も必要である。覚悟して登録すること。病院実習前抗体検査・検便検査は実習開始よりも前に行う必要があるため、コンソーシアムで公開される情報に従い、必ず期日までに済ませておくこと。心理実習の受講については、ゼミの指導教員にも相談するとよい。
- ・ 心理実習における伝達事項は、コンソーシアムのホームページあるいは Waseda

2021年3月1日

Moodle で行われるので、こまめにチェックすること。また、実習に関する事前説明に出席しないと実習内容が把握できなくなるので、留意すること。

- ・ 実習先ごとに班を作るが、実習の受講者の大半は教育学部の学生なので、情報の入手漏れがないよう、教育学部の学生からも情報が得られるようにしておくとなおよい。また、各実習先で分からないことがあった場合、誰に連絡をすればよいかを確認しておくこと。
- ・ 4年次の場合、先取り履修の要件を満たせば学部在学中に大学院設置科目を登録できるが、学部在学中に受講しても公認心理師該当科目としては認定されないので注意すること。大学院科目先取り履修制度を利用する場合、公認心理師該当科目以外の科目を先取り履修するとよい。
- ・ 休学等の理由により、2017年9月15日の時点で学生であった場合は経過措置者に該当するため、留意すること。

<延長生における注意事項>

- ・ 教育学部で開講されているもののうち、文学部も受講可能なものがあるが、その多くは三次登録になる。ただし、登録前であっても初回の授業には参加可能であり、そこで重要な事項が話されることも多いので、履修を希望する場合は初回から授業に参加すること。
- ・ 経過措置期間なので心理実習は必修ではないが、貴重な臨床経験になる。
- ・ 心理実習の受講希望者はコンソーシアムに掲載されている通り、期日までに2021年度実習先エントリー調査など、書類提出や申請をする必要がある。原則として、途中離脱は不可で、欠席も認められない。拘束時間も長く（普通の授業のように特定の曜日・時間帯に固定されていない）、別途実習経費がかかり、病院実習前抗体検査・検便検査（コンソーシアムに掲載）も必要である。覚悟して登録すること。病院実習前抗体検査・検便検査は実習開始よりも前に行う必要があるため、コンソーシアムで公開される情報に従い、必ず期日までに済ませておくこと。心理実習の受講については、ゼミの指導教員にも相談するとよい。
- ・ 心理実習における伝達事項は、コンソーシアムのホームページあるいは Waseda Moodle で行われるので、こまめにチェックすること。また、実習に関する事前説明に出席しないと実習内容が把握できなくなるので、留意すること。
- ・ 実習先ごとに班を作るが、実習の受講者の大半は教育学部の学生なので、情報の入手漏れがないよう、教育学部の学生からも情報が得られるようにしておくとなおよい。また、各実習先で分からないことがあった場合、誰に連絡をすればよいかを確認しておくこと。
- ・ 先取り履修の要件を満たせば学部在学中に大学院設置科目を登録できるが、学部在学中に受講しても公認心理師該当科目としては認定されないので注意すること。

2021年3月1日

と。大学院科目先取り履修制度を利用する場合、公認心理師該当科目以外の科目を先取り履修するとよい。

< 大学院生における注意事項 >

- ・ 公認心理師心理実践実習の受講希望者はコンソーシアムに掲載されている通り、期日までに 2021年度実習先エントリー調査など、書類提出や申請をする必要がある。原則として、途中離脱は不可で、欠席も認められない。拘束時間も長く（普通の授業のように特定の曜日・時間帯に固定されていない）、別途実習経費がかかり、病院実習前抗体検査・検便検査（コンソーシアムに掲載）も必要である。覚悟して登録すること。病院実習前抗体検査・検便検査は実習開始よりも前に行う必要があるため、コンソーシアムで公開される情報に従い、必ず期日までに済ませておくこと。実習の受講については、指導教員にも相談するとよい。なお、割り当てられた実習先で必要と思われる知識は、積極的に自学自習すること。
- ・ 他箇所設置科目は、在学中に10単位までという履修制限数がある。教育学研究科を含めた他箇所科目を10単位以上履修する見込みがある者は、文学学術院事務所で書面による申請が必要となる。その場合は、他研究科提供科目の登録日に文学学術院事務所で手続き方法を尋ね、指示に従うこと。